ヘ 5
1932

門 へ 5
書
巻

三毛猫
詩

芭蕉翁序

書肆菊舎氏の一冊あとを慕ひて[illegible]
[illegible]
[illegible]

故實

[illegible]

一和七云光明ハ佛語ト信を[illegible]

[illegible]

長[illegible]

[illegible]

[illegible]

世人俗説とて連歌の奴僕のやうに思ひたる沙汰
沙汰に格別なり

一

卯七云蓮門に笛の服部笛の伴之を用る
事いつた云未曰愛宕服部連歌と云一句
歌の中の句に笛の音と云文字を用て
連歌の法也とよすい音の
下の句に成とも
やはりのいちさうに
まつ川流れ
かなり

一

卯七曰蓮門に毫毛の事付る事
毫毛の句の事付る事
発句に四季なし
あるべきなり
定免
其毫毛
歯
何
紫
又詞に毫毛
市
年

毫毛の事の服部の説なり
卯七曰蓮門に毫毛の事付る事
毫毛の句の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事
毫毛の事付る事

カ、のみ、のみ、のみあり

一仰せ云発句に切字を用ひざるは故あり先師曰此切字を知れりや吉朱曰未傳授不知只自らの発句は一本木の如く一句の発句は一本の如くといへり精根つきて全く人発句の形なり

大いなる精根ある句は切字なくして自然に切れたる句なり

まい面影を走らしめ連俳を思ひ入れたる句なり

秘すれば花なるべし

切字なくして切れたる句なり

発句のみ切字なくして切れたるものあれども

第一切字を用ひざる句を切字なくして切れたる句とさせり

先師曰秘すれば花なるべしと云ふ

発句は十七字なり切字を用ひざる時は十七字なり

又曰切字なくして切れたる句なり

一字の切字あり

一字なくして切れたる句

先師曰俳諧は切字なくして切れたる句なり

吉朱曰俳諧は十七字なり切字を用ひざる時は十七字なり

又曰切字なくして切れたる句なり

一卯七云花ハ定産ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

の法と一句ずつ抜き出だしたる大切の意句抜き出だしたる
いとなり一説は意句張陽和尚の句頭に一句出
抜くなり　又曰　昔切に又一句出
抜きたるなり　詩に知るべし　芳い
意一句出れば其句の外に意句あり
あいさつ　又古今負面貞といふ意句あり
一巻とは　かくて古切なる
巻頭意句　意句稀　又多くは意句なり句出
吟句　一巻不出来　出来あれば
外より　時は二句出来　外より　時
強て　抜よとは　かくて
何章巻　のよう　意句
なく　新のくとか　出ようとたと
とし　文は連　の章の　伝澄のくあるねい

たるもの　なるべし　あるべし　紀れた我いとの深
年と　あるべし　只後学の作しよりまを
四句　なるべし
卯七云　蓮　月に用ひ伝ふ古来云
十年　酒堂云　深川の家　月の句出
芭蕉師曰　月雪　白年　月あれば卯月の白
作句に　抜形　月と　月より用ひ　喪の月
をとる　月の用のまを　入られしと
さも有べき年と　云　月雪　月
の句出る年　云芭蕉　式を　出られ　伝よ
なるとを　用ひ　伝ふ　許六の書を
にそ　の　雪　月　有　の　まり
然　の　雪　月　用ひる　深　年
世年　を　て　和　許六　深川の伝
いうさまを　田　る

一野坂云 東武の俗示を盂蘭盆と云 天教と云 霊祭 [illegible]
[illegible] 月の名を [illegible] 月の神祭 [illegible]
[illegible] 退て [illegible] 已よりと [illegible]
故あり 一説 新教 [illegible]
新教 [illegible] 中元 [illegible] 不審あり

蛙タ

私曰盆は梵語 逐い盂蘭盆 [illegible] 則盂蘭盆
便あり 新教 教より遠 [illegible] 節序の意なり
天教を [illegible]

一去来曰許六と岩月の名の字を論ず 岩一八月
十五夜は畫宿也清明と用る 岩二和音 月
[illegible] 清明の字
[illegible] 岩四本朝の [illegible] 義 [illegible] 用る
[illegible] 岩三去来を [illegible] 岩七
先達明の字書れ [illegible]

一

かるべしと 許六は明月と八月十五夜とは和音の歌
格なし 明月は良夜の月の事 名月は明の字
書は未詳 世俗 [illegible] 名月は明の字
中秋の月を [illegible]
書 [illegible]

許六曰 [illegible] 事あり
然 [illegible] 村 [illegible]
[illegible] 去来曰多くは
夏は [illegible] 歌人 四季
月 [illegible] 発句 [illegible]
[illegible] 発句 [illegible]
不芝恨退て [illegible]
[illegible] 情 [illegible]
[illegible] 私曰 [illegible]

一 吉兼曰 [illegible] 天下一[illegible]
[illegible] 必不通 又伝授 [illegible]
[illegible] 知る人すくなし 堂上[illegible]
人の[illegible]
あり 紹巴貞徳と世伝 [illegible] 又世伝 伝授[illegible]
[illegible] 世伝 [illegible]

一 許六曰 古事 古言を云こい作をこの心
をきす 多い 名将の橋の反 [illegible]
といふ名将の作 [illegible]

一 光悦曰世上伝授の文章をとるに或い漢文とかぶ
和[illegible]又い和言の文[illegible]漢言を入れ混
[illegible]

一 探式い人情を云て今[illegible]
[illegible]
下れる [illegible] 求め西[illegible]
[illegible] 文章い [illegible]

佳話

文字い僕言をかく [illegible]
[illegible]伝の上 [illegible]
吉来田古事 古歌を [illegible]
作す [illegible] 多い 略 [illegible]
の事を [illegible]

一 [illegible]

光悦曰 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 光悦曰 [illegible]
[illegible]
書 [illegible]
[illegible]
[illegible]

綴じ字形の仮流あるを用ゆる短冊あり
書〻は行ふる所あり片名を付ふ〻り〻き
字あり書〻は苦〻しかるべし　たゞ仮名ふ仮名
書〻の自悟〻と又は名をとり見風俗
と云けゝと剱刀のあり　字あり名を用ゆ〻
と〻り先師聖所〻陽発あり
一　去来曰伊勢集のと〻ふやさし伊勢物語の内
伊勢〻〻　あり現集の歌をとゝ〻岩波と書
おのひきかの作り　第あり免書の新まて
歌書の用〻　八〻とてとうやおと〻
一　去来曰外記の寸たり人ふ書代の家の
二とり　物語は〻の一とをとゝ〻猿みの内
先師のあり　悟〻見え
丁未中日長歌練者の日
詩あり　年少者の日

仮書の名

一　和七云　先師よ二人形をいふ文章作るようふ
去来曰紀貫之史記　貫を点て写さ〻〻叶先師
の写字寸法を書り少作れと云部ち本ち
文章は不拙ち〻〻　写人多
一　去来曰先師曰伊勢物語の書名を和歌詩文史除
物語ふ〻麦伊書　と〻〻〻〻れい
先師の名の日　栗三月見
名の日ひさこ猿みの時　初よ京を有孤山と
一　去来曰浪化集の時　和歌の名不ちれいあきら〻し
馬丸先師曰　皆　曽町云浪化集と伊書
浪化集と　名　去来曰され
の名は詩　和歌史文伊ふつ
浪化詩　あり　伊書と〻〻〻〻　伊語者あれい者
〻〻〻　伊書と〻〻〻　あきら〻け
丈中日　長歌短歌の年　伊あり年　今朝の日

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 三秀曰古今集ハ元ハ二十巻ニ撰ミ
人ノ心ヲ主トシテ歌ヲ撰ミ
詠ス 一集ハ此ヲ撰ミ
の事例ある事ハ今
らかゆゝの事ハ今
て〳〵唐土の詩ハ
丈夫ハ詩ハ杜子美
の千篇とやゝ
伝れと云ふ

一 本節同中比の歌人
の右大臣ハ
一 本節同古今集ハ今流布する書三十軸
公羽の白定家卿ハ
人の作ハ
一 古今集の序ハ六義を
ふつ其義ある事ハ
和歌の義ハ詩
ハ
時ハ
と同一
時事
ハ
ハ
ハ

格式
後世

四季のうつりかはるを摂政関白なども
中務の宮などの歌にもよみけるを中よりのち
後世にこそ格式出来れ

一 素堂曰今の人の作る俳諧
俳歌なるものとて人つねの
詩經の作又作りかたを
を用ひ今作とは
さて第一体とて
いとも古く集い今作
ありしかども世作
と云不し其体
あるべしとて
なり」と申は一言を成四十

一 素堂曰中興之の士代り起て好て
古歌
詩
伊勢物語
土佐日記
奥の細道
を称す
今人是を称する人
其文章也代り起
古人の面目を
失へり

一 素堂曰歌は対面して時俗
ともに
なり
すれい
歌
曰連歌
の
上下
百韻
を
連歌
の
字義に
俗語
俗語
俗語

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一古代の人を人と同じく[illegible]

一今席ハ一座の時宜[illegible]

一化門と交りて苦[illegible]

一書示ねる[illegible]

上下を分ち一[illegible]

[illegible]

[illegible]

あいびき

次の歌の日数さまざまにて
といふ句海仙禮を
秋ちかの

仙禮の歌の句
といふ句海仙禮を
聲をいふ紙の連歌の
仙禮の一体と
きらふ
月なり
月白連歌
二句
二句の上句
分別なく
連歌
さる
連歌と
すること
連歌と
仙禮
仙禮

といふ句
きらふ
仙禮
といふ
あり
連歌
の文
の思
仙禮の言
仙禮の言
雅
花
仙禮
といふ
仙禮
ようとの
又
茶
茶の
茶の
茶の
茶の
茶の

[illegible]自然法爾の義自然法爾とは
[illegible]ちと自分の[illegible]き文[illegible]
[illegible]のむこうに不[illegible]ちかくと松とをくるは
[illegible]ちと四[illegible]出[illegible]の言葉ふ[illegible]
[illegible]ちの[illegible]ちの[illegible]の義の言葉ふ[illegible]
心の出不れ[illegible]
[illegible]同[illegible]
[illegible]自然法爾[illegible]
[illegible]
[illegible]分明[illegible]
[illegible]
[illegible]

あらられて乾坤を定まる天地と羽川
と云て泉の見事なり　の流れ　幼徒蓮
蓮と云て花咲て　梅の木　の白と
すると　宮と山　白　梅の木　蓮花
と　蓮の　蓮と　共に　登山　二うう　梅の白　蓮
　　村　　

白い　見つ
白　白作い　一百作　深い　見しなる
白作い　蓮　白い　毎日　見
常の　情　　

田と刈りつみ　白い　白　稲を　
と　白　白　稲の　
田と　高　
と云れ　現　
分　の　
と　用　
と　
　　
　　
　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]一日立てるものの日の[illegible]
[illegible]知[illegible]のもの仕[illegible]る[illegible]

一石[illegible]

[illegible]かゝる中の米　法圓

[illegible]人の[illegible]
[illegible]の日とする時世[illegible]
[illegible]人の情をとりて一石の米をわかつ[illegible]
[illegible]知る人いなし[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]蘇の中の[illegible]
[illegible]人をする村[illegible]
[illegible]

前日　真心

[illegible]
[illegible]
[illegible]

山賊の大名なりし人の祈を松風と云ひ合せし
地蔵の真を見るに同御信心強しと云ひ
山賊の同大名なるに別名なるべしと
御問ひの若き小性の名仕を名あつるに
なるべしと云ひ松風と名付
有りし情の有るべきの名を
云ひ同よかるべしと云ひて
御遊の魂を生ずる古風と
なるべしと云ひ
生男よ感合すべしと一句
裏の如く云の山賊
なるに付き〳〵無しと
うるつて居き一枝の魂れ
蘇の御御の多と墓所と見

付る者その人かるとすべし一すち〳〵極
る場と思はるに有るべきと思の
ともるにかるべうるべし世なる所と
見るべる聲かいるとかるべう魂をさる
月と家ら御遊とつて見るべし一句深川
みるべるべる
山遊

とつるに
ありとかきこうて山遊と云ふ松風
と付る場立芳清御
て御遊れ
東すべれと見れる
あるべるけひるる
かあるべるとと笠といる
ればるいるるべ
ばるるるるる

魂を自のえるきを
一句のそるる
の前清
山倍るるるいき人の
松風い
句をるるるる

[illegible]

問ふ人に句作のいかゞ問ふ人に句作のいかゞ

名月

名月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

曲翠問桑白と云あり色集つくるとき[illegible]
[illegible]なるへきを翁曰色早き白[illegible]
[illegible]と[illegible]と云[illegible]
集と云[illegible]の白[illegible]を撰ひ[illegible]
を紀[illegible]すると[illegible]撰集の白[illegible]
[illegible]頁徳四年[illegible]人[illegible]の[illegible]て京[illegible]
俗謡を唱[illegible]
[illegible]異[illegible]
[illegible]の日[illegible]あ[illegible]
[illegible]白[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]書と[illegible]四年[illegible]

[illegible]時代[illegible]の[illegible]を[illegible]

[illegible]ようなる[illegible]

[illegible]古人の跡[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一和七問談精義の師[illegible]
去来曰いふ和七日の石寶の事あり

京の[illegible]の回柱の[illegible]
と[illegible]の[illegible]師還化の[illegible]年[illegible]師
の[illegible]時作せし[illegible]白し[illegible]
[illegible]
[illegible]精義は[illegible]師還化の年七月伊賀[illegible]
[illegible]の杉[illegible]
[illegible]

頭[illegible]時[illegible]
宵[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

松

[illegible]

惟然と**芝門**[illegible]

[illegible]

標[illegible]

柏[illegible]

落花と[illegible]

[illegible]

蕉翁[illegible]

[illegible]

柳も[illegible]

[illegible]

蕉翁

蕉門

[illegible]

集の[illegible]

[illegible]

集めかくることの必化[illegible]

卯七問**義仲寺**[illegible]

芭蕉を[illegible]

眼い[illegible]

[illegible]

文考の脚

ウツト感ーー入て一ツ結りの其中ゝ鞠色の文考
云あり〻て脚をすゝ〻り見又感ずきゝ白化り紙人
感慨悲仕て志ゝ〻〻〻

[illegible]の[illegible]を始て上[illegible]の[illegible]
[illegible]侍の六義[illegible]何の[illegible]何の[illegible]
[illegible]の[illegible]の秘訣
[illegible]の名目[illegible]
[illegible]仕[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

芭蕉說跋

明和乙酉余遊瓊溟過外尾氏後亭得國
字之書無外蕪且編者無書名余電
矚之則多芭蕉所與諸門人論難若
述之語而知七附說也余心喜而好之譬如
曰塚得周書魚腹壁得聖經也請之而歸
藏諸篋中而秘之數十年矣尾崎行
有曰長秘此書而藏之埋金於土中
投珠於海底之類也不如刻之而利人
之為愈也余信彼人之言乎今茲庚辰京
師諫蕉之關與使書疑為余者摹
刻焉

私題為芭蕉說以為後生之寶筏
焉

寶暦七丁巳六月穀旦影于本安房
東陀　釋文曉